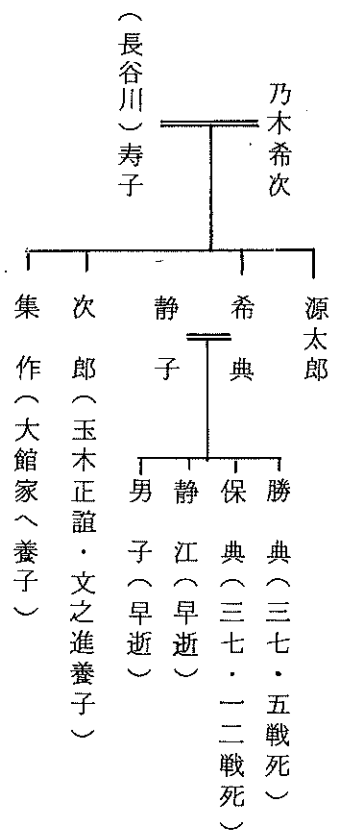


乃木希典—明治人の「原型」—

九州女子大学教授
国民文化研究会常務理事
山田輝彦

一、家系



二、「遺言条々」・「辞世」 (大正元年九月十三日)

- (1) 第一、自分此度御跡ヲ追ヒ奉リ自殺候処恐入候儀、其罪ハ不_レ輕存候。然ル処明治十年之役ニ於テ軍旗ヲ失ヒ、其後死処得度心掛候モ其機ヲ得ズ、皇恩ノ厚ニ浴シ今日迄過分ノ御優遇ヲ蒙リ、追々老衰最早御役ニ立候時モ無_ニ余日一候折柄、此度ノ御大変何共恐入候次第、茲ニ覚悟相定候事ニ候。

(2) 辞生

うつし世を神去りましたし大君のみあと慕ひて我はゆくなり(乃木希典)
出でまして還ります日のないとき今日御幸に逢ふぞ悲しき(静子)

三、森鷗外「日記」

明治四十五年四月二十四日
乃木大将希典来て、赤十字に関する意見を艸せしを謝し、*Carmen Sylva* 妃に逢ひしことを語り、白樺諸家の言論に注意すべきことを托す。
大正元年九月十三日
途上乃木希典夫妻の死を説くものあり。余半信半疑す。
大正元年九月十八日
午後乃木大将希典の葬を送りて青山斎場に至る。興津弥五右衛門を艸して中央公論に寄す。

四、夏目漱石「模倣と独立」 (大正二年十二月十二日 於一高)

乃木さんが死にましたらう。あの乃木さんの死といふものは至誠より出たものである。乃木さんの行為の至誠であるといふことはあなた方を感動せしめる。
夏目漱石『こゝろ』(大正三年九月)
すると夏の暑い盛りに明治天皇が崩御になりました。其時私は明治の精神が天皇に始まつて天皇に終つたやうな気がしました。最も強く明治の影響を受けた私どもが其後に生き残つてゐるのは必竟時勢遅れだといふ

感じが烈しく胸を打ちました。

五、志賀直哉「日記」(大正元年九月十四日)

乃木さんが自殺したといふのを英子から聞いた時、馬鹿な奴だといふ気が、丁度下女かなにかゝ無考へに何かした時感ずる心持と同じやうな感じ方で感じられた。

六、武者小路実篤「三井甲之君に」(「白樺」大正元年十二月)

ゲーテやロダンを目して自分は人類的といひ、乃木大将を目して人類的分子を少しもたない人といふのに君は不服なのか。

さうして君は乃木大将をロダンと比較して、いづれが人間本来の生命にふれてゐると思ふのか。乃木大将の殉死が西洋人の本来の生命をよびさます可能性があると思つてゐるのか。

ゴッホの自殺はそこへゆくと人類的の処がある。

七、芥川龍之介「將軍」(「改造」大正十一年一月)

「無論俗人じゃなかつたでせう。至誠の人だつた事も想像できます。唯その至誠が僕等には、どうもはつきりのみこめないのです。僕等の後の人間には、猶更通じるとは思はれません。」

八、小林秀雄「歴史と文学」(「改造」昭和十六年四月)

(ウォッシュユバンの『乃木』が)芥川龍之介の作品とまるで違つてゐる点は、乃木將軍といふ異常な精神力を持つた人間が演じねばならなかつた異常な悲劇といふものを洞察し、この洞察の上に立つて凡ての事柄を見てゐるといふ点です。

僕は乃木將軍といふ人は、内村鑑三などと同じ性質の、明治が生んだ一番純粹な理想家の典型だと思つてゐますが、彼の伝記を読んだ人は、誰でも知つてゐる通り、少くとも植木口の戦以後の彼の生涯は、死処を求めるといふ一念を離れた事はなかつた。

九、福田恆存「乃木將軍と旅順攻略戦」(「歴史と人物」昭和四十五年十一月)

私は爾靈山にれいざんの頂上に立ち、西に北に半身を隠すべき凹凸すら全くない急峻を見降した時、その攻略の任に當つた乃木將軍の苦しい立場が何の説明も無く素直に納得でき、大仰と思はれるかも知れませんが、眼頭が熱くなるのを覚えました。

乃木將軍は日本の「象徴」なら、旅順要塞はヨーロッパ列強の「象徴」と言へませう。